

太田市自分ごと化会議 2020

第3回 議事概要

日時	2020年11月28日(土) 13時30分～16時30分
場所	オンライン会議
コーディネーター	厚木市 こども政策アドバイザー 小瀬村寿美子 構想日本 プロジェクトマネージャー 田中俊
ナビゲーター	キャタピラー・ジャパン合同会社 代表執行役員 塚本恵

凡例) コ：コーディネーター、ナ：ナビゲーター、委：委員、O：OBOG 市：市職員

議事概要

■はじめに（前回までの振り返り）

コ 今回配布した「中間取りまとめ」では、これまでの議論を「仕事と子育て」、「多様な産業、働き手、働き方」という2つの区分に分けて整理してみた。前回は、特に仕事と子育ての両立という観点での議論が中心だったように思うので、今回は、産業や働き手、働き方という観点で議論をしてみたい。また、今回は、働き方について豊富な示唆をお持ちのナビゲーターと過去の自分ごと化会議に参加したOBOGにも参加いただいているので、この二者からも新たな論点を聞き、議論の参考にしたい。

コ OBOGについては、裏会議と称して別日程で事前に2回ほど議論してきた経緯があるので、まずはそちらで議論された内容を共有したい。

（議論概要）

- ・ OBOGの議論は、仕事をする上で抱える「悩み」が論点の中心であった。
- ・ 悩みを抱えて仕事をしている人をどうサポートできるか、安心して働ける環境を作れるかが、働きやすさ、暮らしやすさにつながるのではないかと。
- ・ 会社のケア制度や行政の相談窓口は敷居が高い。
- ・ 程よい距離感の人、例えば、職場に出入りしているヤクルトレディのような人や、趣味のサークル仲間などと世間話程度に話しているうちに自分の中で整理がつくこともある。
- ・ ちょっとした相談をできる環境をどう作れるかが重要。

■悩みを抱えて働く人へのサポートについて

(キーワード：行政に相談する敷居の高さ/漠然とした悩み/悩みの整理)

- コ 仕事をしながら抱える悩みは、大なり小なり皆さん抱えていると思う。
悩みを抱えた人へのサポートという点で、委員の皆さんからも意見を聞ければ
と思うがいかがだろうか。
- 委 私が参加している活動に、引きこもりの人の居場所づくりを行うものがある。そ
こで、引きこもりのまま大人になった人から、働きたいけど働く場所がないとい
う悩みを受けたことがある。
- 〇 若者の就労支援については、公的なサポートが充実しているはずだが、そのサポ
ートを受けるための相談に敷居の高さを感じる人が多い。
大変なことになってから始めて相談するのではなく、ちょっとしたことでも相
談に行けるようになるとよい。まずは、行政への相談は敷居が高いという認識を
改善することが必要ではないか。
- 〇 行政の相談窓口で相談すると、「何がお困りですか？」と聞かれることがある。
何が困っているか分からないけれど、漠然と悩みを抱えている人もいると思う。
- コ かかりつけ医ではないけれど、何となく具合が悪いから診てくださいと言える
存在がいるとありがたいというところだろうか。
その人に悩みを整理してもらったこともあるだろうし、その人と話しているうち
に自分の中で整理がついていくということもあろうかと思う。

(キーワード：悩みの受け皿の順番/個人のコミュニティ⇒制度)

- コ 企業側でもメンタルヘルスなどの体制を整えていると思うが、ナビゲーターか
ら企業側の視点での意見を聞ければと思うがいかがだろうか。
- ナ 企業の相談体制はもちろん整っているが、利用する人は大体限られていて、皆に
行き届いているかというところでもない。悶々と悩みを抱え続けているという
人も多いように思う。
むしろ、子供のクラブ活動などパパやママとしての私的なつながりの中で発散
していたりするのを実態に近いように思う。
- 委 働いている場面だけで、悩みや不安を発散させることには無理があるというの
はとても共感できる。

委 悩みの受け皿の順番として、「会社や行政の制度」があって「個人のコミュニティ」があるのではなく、まず「個人のコミュニティ」がベースにあって次に「会社や行政の制度」があるという方がしっくりくる。

○ 私は、外国人向けの外国語相談ボランティアをしているが、相談にやってくる人の多くは、相談時には悩みが整理された状態で、かなり具体的な内容を聞いてくる。

漠然とした悩みを相談するという人は、あまりいない。

これは、彼らのコミュニティがしっかりしていて、そのコミュニティ内で事前に相談内容を整理してから来ているのだと思う。

コ 制度面でのサポートの前に、個々人が持っているコミュニティが重要と言えそうだ。

一方で、コミュニティに入っていない、一人で悩みを抱えている人もいると思うが、この人たちにどうアプローチするかということが問題となりそうだ。

○ 上司と部下や同期同士のような職場の小さなコミュニティもコミュニティだと思う。

委 飲みニケーションとよく言うが、上司から会社帰りに飲みを誘われて、嫌だと思っても飲んでいっているうちに意外と腹を割って話せて、ストレスも発散できるということはあると思う。

会社帰りに誘われて飲みに行くことを本当に嫌だと思っている人はいると思うので、全ての人に当てはまるわけではないが…。

委 大学生なので、会社の実態はよくわからないが、若い人は特に会社とプライベートを切り離して考える傾向にあるように思う。

コミュニティというか、趣味が同じだったり、同じ境遇だったり、何か共通点がある人と SNS 上でつながって、直接会わずにそこで相談するという方が話しやすかったりする。

■テレワークなどの多様な働き方について

(キーワード：今ない人材の獲得チャンス/自分の望む働き方)

コ 多様な働き方という観点で、第 1 回会議の時にも話題に出たテレワークについて、意見を伺っていきたい。

前回までの会議では、太田市は製造業の街で、工場などでの現場作業が多いから

テレワークは馴染まないのではないかという意見も出ていた。

どのような職種でもテレワークを導入することへのハードルはある中で工夫をしていると思うが、そのような点について、ナビゲーターにご意見をお聞きしたい。

ナ 私の所属する企業も外資系の製造業で、工場のライン業務などもある。そういう業務に従事する人にはテレワークは導入できないが、一方で経理とか内部管理系の部署に従事している人も当然いて、そういう人たちを対象にテレワークを導入している。

最初は、「自分がいないと仕事が回らない」と言って抵抗していた人も、実際に何度かテレワークをしているうちに慣れてくるようで今は快適に仕事をしている。

コ 行政側の視点では、太田市でのテレワークの需要はどう映るだろうか。

市 現状は市内の企業にテレワークの需要があるという話はきかないので、先ほど来話に出ているように、既存の産業には馴染まないのかもしれない。

ナ コロナ禍をきっかけにテレワーク導入の機運は高まっていて、私の会社も3月以降は原則テレワークという方針を出した。私もたまたま地方にも家を持っているので、ひと月ごとに東京と地方の家を行ったり来たりして過ごしていた。直近の報道で、東京都の転出超過が続いているという記事も見かけたが、オンライン環境と子供の教育環境が確保できれば、東京から地方に人が流れるということはあるのではないか。

コ 太田にテレワークが馴染まないという点について、別の見方をすると、今ある産業や職種の中だとテレワークは難しいが、今ない職種の人や産業を獲得するチャンスともいえる。

ナ 場所に囚われず、多様な人材を採用できるということは企業にとってもメリット。ニューノーマルな状態が続く中で、海外にいる人材が太田市にある企業の仕事をすることも起こり得るし、既存の産業の中でも雇用形態は変わってくると思う。

委 私の母親は、手足が全く動かないというわけではないが、手足が不自由で、会社に通勤して仕事をするというのが難しいが、テレワークなら家に居ながら仕事をできる。

テレワークが普及していったら、身体的な事情で働けない人も、自分の望む働き方ができるのではないだろうか。

■まとめ

- ・ 働くうえで、誰もが小なり大なり悩みを抱えている。その悩みをどう発散できるか。世間話のような「ちょっとした相談」をする中で、自分の中で悩みや漠然とした不安が整理されていく。
- ・ 相談体制については、会社や行政の制度の前に、個々人のコミュニティが最初に機能する方が実態に近く、個々人で普段から持っているコミュニティが重要。
- ・ テレワークなど、新しい働き方は太田市の既存の産業には馴染まないかもしれないが、裏を返すと新たな職種が根付くきっかけにもなり得るし、今まで獲得できなかったような人材を獲得できるチャンスでもあり、企業にとってのメリットもある。